

番号	1	事業名	地すべり対策	市町村名	長野市	路河川名	(地)善福寺	箇所名(ふりがな)	善福寺(ぜんぶくじ)
事業計画時の課題・背景及び事業経緯	<p>○当該地域の地質は新第三世紀の泥岩、砂岩層からなり、向傾斜構造の軸上に位置し、古くは善光寺地震(1847年)の際、大規模な地すべりが発生し、近年においても地すべりがみられている。</p> <p>○平成17年度は記録的な豪雪で、融雪の影響により平成18年3月25日に地すべりが発生し、土蔵被災の通報あった。</p> <p>○H18.3.29(地方事務所、長野市で地元説明)、4.20(当所にて経過、状況、今後の予定説明)、7.25(工事概要、地すべり防止区域指定の説明)、9.5(用地補償の説明)、10.5(地すべり防止区域指定範囲の説明)、12.20(工事説明会)、H19.6.8(工事変更に伴う経過説明)</p> <p>○H18.4.27~5.19(応急工事)、H18.12.1~H19.8.28(本工事)、H19~22(関連対策工事)</p>					事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化(A:環境がよくなった B:大きな影響なし C:影響が大きい)	評価		
						②事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化	○事業実施により、排土工及び法面に現場吹付法砕工が施工されたが、砕内緑化によって自然環境に大きな影響はない。	B	
事業目的	<p>当地区は、平成18年3月25日に融雪の影響による地すべりが発生し、人家1戸が半壊、土蔵1棟が全壊し被災したことから災害関連緊急地すべり対策事業により対策工を実施した。未対策ブロック付近では人家に隣接する耕地に亀裂が生じているため、そのまま放置すれば亀裂等がさらに拡大し周辺人家や道路等への影響が懸念される。よって特定緊急地すべり対策事業により人家16戸、国交省笹平出張所、主要地方道長野大町線、主要地方道戸隠篠ノ井線、市道等を保全するものである。</p>					施設の維持管理状況(A:地域の人たちの参加あり B:適切 C:やや不十分 D:不適切)	評価		
						③施設の維持管理状況	○維持管理は、土尻川砂防事務所で行っており、点検、パトロールを適宜実施している。 ○異常発生時の連絡体制を整備している。	B	
事業概要	当初工期	H18~H22	費用対効果(当初時)	4.1	事業費(千円)		財源内訳(千円)		
	最終工期	H18~H22	費用対効果(評価時)	3.2	上段:当初/下段:最終	国庫	その他	県債	一般財源
	当初計画内容(主な工種)	現場吹付法砕工A=1409m ² アンカー工N=72本 ΣL=736m 土留工 L=234m 排土工 V=4440m ³ 横ボ-リング工 L=7670m 水路工 L=2645m		255,000	146,460	0	97,686	10,854	
	最終事業実績(主な工種)	現場吹付法砕工A=1762m ² アンカー工N=82本 ΣL=1504m 土留工 L=271m 排土工 V=12610m ³ 横ボ-リング工 L=4378m 水路工 L=661m		324,047	180,984	0	128,757	14,306	
④地域住民等の評価						地域住民等の評価(A:評価が高い B:中程度の評価 C:評価が低い)	評価		
迅速かつ丁寧な対応により、地域から高い評価を得ている。 ○災害発生後、安全パトロールの実施、計測機器の設置、避難体制の整備等、迅速に対応していただいた。 ○地域の安全安心が早期に確保された。 ○地域内を通る主要道路の戸隠篠ノ井線を通行止めせずに工事が完成した。 ○被災した土蔵は工事中に取壊され更地となり、家屋は現在空家となっている。						A			
事業期間の延長、短縮理由と分析						⑤事業の主たる目的以外で地域社会への貢献状況	評価		
○事業の主たる目的以外で地域社会への貢献状況						○地すべり対策事業が地元の防災意識を高める事につながっている。 ○自主防災組織の運営が強化されるなど地域防災力の向上が見られる。	B		
事業費(予算)の増加、縮減理由と分析	災害関連緊急地すべり対策工事中に新たな変状がみられ、その対策を実施したため、排土工等の数量が増え事業費も増加している。					改善措置の必要性	○現状では、修繕等が必要な箇所はない。		
①事業効果の発現状況	事業効果の発現状況(A:目的を超えた達成 B:達成した C:概ね達成 D:達成したとはいえない)					評価			
	直接的効果(定量的・定性的)	<p>○災害の防止</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人家16戸 ・農地10.8ha ・県道760m、市道2,520m、農道1,000m ・国交省事笹平出張所 ・事業完了後、地すべりの変状はない。 			B	<p>今後の取り組み及び同種事業への活用と課題</p> <p>○近年、集中豪雨や融雪による地すべり災害が多発する中、同事業の必要性が、住民から認知されている。</p> <p>○今後も災害に強い地域づくり推進するため、施設整備とあわせて、異常発生時の情報伝達の強化、避難方法・経路の確認、防災意識の啓発活動といったソフト対策の充実を図り、ハード・ソフト両面から土砂災害対策を進める必要がある。</p>			
	間接的効果(定量的・定性的)	<p>○生活環境・自然環境への影響</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民の安全安心度の向上。 ・自主防災組織の運営が強化された。 							
	部意見	○地すべり対策施設の整備により、保全対象の土砂災害に対する安全度の向上が見られ、事業の目的を達成している。							
行政改革課意見	地すべり活動は沈静化しており、一定の事業効果が認められる。								